

令和6年度

地域連携実習報告書

●教育学部実習委員会

●教職支援ルーム



EHIME UNIVERSITY

目次

I. はじめに	1
II. 令和6年度地域連携実習の現状と課題	2
III. 地域連携実習アンケートの結果	3
IV. 学校別事業一覧	5
V. 活動タイプ別 地域連携実習報告書（抜粋）	8

1. はじめに

今年度の地域連携実習では、たいへん多くの学生が、大学の中では得られない貴重な教育体験をさせていただきました。はじめに、事業をご提供くださった学校園や教育関係機関のみなさまに心より御礼を申し上げます。

「地域連携実習」は、教員志望の学生たちが地域の学校現場や社会教育の場などで子どもたちとふれ合い、さまざまな教育体験活動をさせていただくものです。教員免許法に定められる「教育実習」とは異なり、卒業要件や教員免許取得に直接かかわるものではありませんが、それぞれの学生が目指す学校種についての理解をさらに明確にする機会であり、また子どもとのかかわり方や学習支援の方法などを学ぶうえで大変重要な機会となっています。

まだまだ改善すべき点は多くありますが、今後も互恵的な関係に基づき、地域に密着した教育活動が円滑に行えるように努力を重ねて参りたいと思っております。どうぞ今後もよりいっそうのご支援とご協力を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

II. 令和6年度地域連携実習の現状と課題

令和6年度の地域連携実習の総事業数は125件（前年度：122件）で、ほぼ昨年度と変わらなかった。事業提供機関は42機関（前年度：47機関）であり、微減であった。

また、地域連携実習への参加状況は、次の通りである。FIC登録学生は492名で、うち教育学部は454名（院を含む）で、教育学部を除く学生の登録者は38名であった。前年度（総数503名、うち教育学部462名（院を含む）、教育学部を除く40名）よりも微減となった。

また、地域連携実習参加学生は延べ629名（実質370名）、前年度（延べ712名、実質360名）である。実質参加者の内訳は教育学部が344名（院を含む）、教育学部を除く学生が26名であった。

実質の活動人数は変わらないので、登録だけをしたという学生が増加していることになるが、これは、昨年度の事業提供校からの意見を踏まえ、教育学部3回生にガイダンス参加を促した結果、ガイダンス参加者が増加をしたという経緯がある。

本年度の特徴的な活動として、「高校生サミット 今を創る 未来を変えるトライブ」のメンター役として関わりで、愛媛県立三崎高校の授業の補助や、伊予高等学校の総合的な探究の時間「探Q」の授業支援、小学校低学年向け理科実験講座 指導補助など、新規の高校実習が増えた。また、附属高校の先生からの声掛けもあり、済美平成中等教育学校から吹奏楽の補助の依頼が来たほか、椿中学校、垣生中学校、東温市立川内中学校から、合唱コンクールの依頼があり、音楽に携わる実習への募集が多かった。

更に本年度からは、オープンバッジを導入した。オープンバッジとは、知識・スキル・経験のデジタル証明であり、欧米を中心に大学や資格認定団体、グローバルIT企業が多くオープンバッジを発行している。令和6年度は、「地域教育支援認定証（FIC30 時間以上参加）」を14名に、「地域未来教育賞（FIC60 時間以上 認定資格条件あり）」を5名に授与した。学生の今後の励みになることが期待される。

一方、検討課題もある。毎年アンケートで指摘されるように、学生からの連絡不足についてガイダンスで強調して指導すること、交通事故等に注意させること、全国的に教員採用試験が3回生でも受験できるようになりつつあることを踏まえ、2回生も活動を活発化させること、ガイダンスの前倒し実施ができるか等が懸案として残されている。

Ⅲ. 地域連携実習アンケートの結果

教職支援ルームでは、令和7年1月中旬に協力校に対して、「地域連携実習アンケート」を実施した。主な内容は1) 活動に参加した学生の様子（良かった点や気になった点）、2) 大学への要望、改善策など、3) 学生を募集するときの工夫、また、来た学生に配慮してくださっていること等について、4) 自由記述、であった。その内容を以下のようにまとめた。

1. 活動に参加した学生の様子

アンケート調査から次のことが分かった。一部を引用して列挙しておく。

【良かった点】

小学校

- ・宿泊活動に参加していただいた。臨機応変に動いていただき、とても助かった。子どもたちに積極的に話しかけたり、一緒に遊んでくれたりして、今も時々話題にあがっている。
- ・進んで仕事を見つけて学生同士で共有したり、困っている子どもに気付いて声を掛けたりするなど、意欲的に活動していて大変すばらしかった。
- ・マラソン大会ボランティアをしてもらった。児童に声を掛けながら伴走したり、体調の悪い児童に寄り添い優しく声を掛けたりしてくれる等、とても好感がもてた。片付けも進んでお手伝いいただき、最後までやってくれた。本当に感謝します。
- ・礼儀正しく学ぶ意欲のある人たちでした。

中学校

- ・配慮を要する生徒に寄り添い、丁寧に学習のサポートをしてくれた。
- ・複数回来てくれる学生が多いので、段取りよく作業してくれるのでとても助かっている。

高校

- ・服装に清潔感があり、落ち着いていて良い。生徒との距離感を上手くつかみ、声掛けも適切である。熱心に指導してくれており、毎年非常に助かっている。
- ・高校生だけでなく、授業に参加してくれた児童にも積極的にかかわってくれたので、高校生にとっても、教員志望の大学生がイメージできる良い機会となった。

幼稚園

周りを見て、率先して動いてくださる学生さんもいて助かった。園児にも温かく接していただき、園児にとってもよい交流となった。

教育委員会や教育施設

- ・小中学生との信頼関係が築かれ安心した表情が見られた。教育実習を終えた学生はその経験を生かし、工夫のある支援で成果を上げていた。
- ・時間を守ったり、予定変更は事前に連絡をくださったたり、社会人としての礼儀やマナーが身に付いている学生さんばかりで感心した。打ち合わせでも、分からないことは自分から確認することができており、安心感があつた。
- ・児童だけでなく、来所者にも積極的に話しかけていて、日頃かかわることのない世代の学生とのかかわりに喜んでいた。
- ・準備から片付けまで積極的に行っていた。また、積極的に児童と関わるなど、実習のねらいや目的をもって臨んでいるように感じた。

<p>【気になった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールでの事前連絡でしたが、返信がなかったので「確認しました」「承知しました」の一言でよいのでメールをいただけるとありがたかった。(全員ではないです。) ・申込みがあったが、その後本人から連絡がなく、こちらから連絡してもつながらない学生がいた。 ・1回生の学生さんの中に、連絡なしで欠席される方が数名いて、当日、こちらから連絡をしないといけないことがあった。早めの連絡や相談をしてほしい。 ・前期は参加学生も多く、メール等の連絡もスムーズだったが、後期になると参加学生が減ってしまった ・できないことや分からないことは、事前説明の時に意思表示をしてほしい。 ・意欲や目的を感じられない学生もいて、残念だった。
<p>【学生募集するときの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来てくれた学生には、学習の目的や子どもへのかかわり方、気を付けることなどをなるべく分かりやすく伝えるようにしている。 ・なるべく早く募集をかけること、内容を分かりやすく示すこと、してほしいことを明確にしておくこと ・水泳の見守りの支援では暑いので、飲み物を渡した。 ・学生に入ってもらうクラスを固定しなかった。 ・1回だけの参加でもよいことにしている。 ・いろいろな学年・クラスに参加することができるようにしている。 ・児童の成長にも気付いてほしいので、同じクラスに関われるようにもしている。 ・何処に行けば良いか迷わないよう、案内文書に校内図をつけるなどの工夫をした。また、不測の事態に備え連絡を取れるようにしたが、こちら側もはじめてのことで、学生に不安な思いもさせたのではないかと反省する事もあった。 ・採用試験の校種を悩んでいる生徒の話の聞いたり、授業の工夫や授業準備についてなど、参考になれば…と思うことを話している。 ・対生徒のトラブルを防ぐため、教員とともに移動する、教科指導だけでよい(生徒指導はしなくてよい)などを事前指導で伝えてある ・他大学の学生とも交流できるよう、担当部署の振り分けを行っている。 ・来園した学生の荷物を置く場所や休憩場所を設けるようにしている。
<p>【大学への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生にお願いすることが多いが、他の公立校にも、メリットが大きいと思うので、どんどん広めてほしい。そこでできるつながりを、大学、学生、学校側も大切にしてほしい。 ・電話連絡がない学生もいたので周知をお願いしたい。 ・こちらの対応として、こうしてくれれば良かったなどのご意見があれば、教えてほしい

以上のアンケート結果を踏まえながら、今後の課題と解決策として、ガイダンスで強調して説明を行うことで、改善していきたい。

IV. 学校別事業一覧

協力校等	事業名	学生登録数
松山市立三津浜小学校	三津浜小学校 大運動会の補助	11
	三津浜商店街を走る校内持久走大会	3
松山市立味酒小学校	ICTサポート実習（前期）	2
	ICTサポート実習（後期）	2
松山市立和気小学校	遠足の引率補助	12
	4年生総合的な学習の時間 車いす体験の安全面の見守り	0
	遠足の引率補助	1
	授業の補助	3
	生活科町探検パート2	0
	校内持久走大会の見守りと伴走	4
	新体力テストの外種目の測定の補助と支援	5
	3年生 総合的な学習の時間の校区内施設見学補助	7
	生活科町探検パート1	7
松山市立姫山小学校	授業の補助	4
	校区内ウォークラリーの補助	3
松山市立東雲小学校	けがにより介助の必要な児童の校舎内の移動の補助及び授業支援	0
	5年生集団宿泊活動の補助	2
	水泳部の監視	2
	水泳学習の監視(月・火・水曜日に参加できる人のみ)	10
松山市立浅海小学校	全校遠足（浅海地域を巡るスタンプラリー）の補助	6
松山市立清水小学校	保健室登校児童の支援（看護科2回生以上対象）	3
	ICTサポート実習（後期）	1
	ICTサポート実習（前期）	2
松山市立石井東小学校	東っ子祭（ひがしっこさい）の補助	14
松山市立福音小学校	プール授業監視補助、授業補助（2回生以上）	12
松山市立雄郡小学校	ICTサポート実習（前期）	0
松山市立道後小学校	道後っ子マラソン大会（道後公園）	6
	「道中祭」の運営補助（道後小おやじの会ブース）	5
	「道小デイキャンプ（お化け屋敷）」の運営補助	5
	ICTサポート実習（前期）	2
砥部町立麻生小学校	体育等の授業補助	1
東温市立川内中学校	合唱コンクールの伴奏支援	1
松山市立余土中学校	しまなみ夢歩行（校外学習） 引率補助	4
松山市立北条北中学校	運動部活動における指導の支援	1
	保育実習の引率補助	4
松山市立垣生中学校	配慮を要する生徒や学習に遅れがちな生徒への支援	3
	吹奏楽部の指導支援	0
	合唱コンクールに向けた授業・放課後練習の支援	1
松山市立東中学校	調理実習の補助（9月）	9
	被服実習の補助（11月12月）	7
	調理実習の補助（10月ムニエル）	4
	放課後アシスタント（放課後の質問学習の補助）	3
	調理実習の補助（11月21日）	4
調理実習の補助（10月）	8	

松山市立椿中学校	校内合唱コンクールの伴奏	1
松山市立湯山中学校	体育大会、合唱コンクールへ向けての授業補助	4
松野町立松野中学校	森の国 松野町林間学校	7
済美平成中等教育学校	吹奏楽部の指導補助	2
愛媛県立伊予高等学校	小学校低学年向け理科実験講座 指導補助	3
	総合的な探究の時間「探Q」の授業支援	1
松山聖陵高等学校	学び直し（数学）のサポート	3
えひめ乳児保育園地域子育て支援センター	子育て支援センターのイベントの補助	5
久米公民館	久米公民館わくわくチャレンジサタデー	25
	みんなのわくわくトキメキ講座「読書感想文を書こう」	1
今治市社会福祉協議会	今治市子どもの学習等支援	1
伊予市役所市民福祉部子育て支援課	伊予市ひとり親家庭学習支援事業「伊予っ子教室」の補助	10
潮見公民館	あそびの学校「夏休みのポスター作り」編	8
	あそびの学校「防災食を作ってみよう」編	10
松山市社会福祉協議会	福祉体験学習事業 清水小学校 5年部	1
	「わくわく！清水じまんたんけんたい」の補助	3
	福祉体験学習の補助 清水小学校 5年部	1
	しみずサポートボランティア	7
西条市教育委員会社会教育課	小松地域未来塾(中学校の夏休み課題(英語・数学・国語))	2
愛媛大学提供事業	愛媛大学放課後学習教室	5
	マイクラスキン作り&キャリア教育	2
	「高校生サミット 今を創る 未来を変えるトライブ」のメンター	7
	道後小中学校区石手地域大山積神社秋祭りのサポート	4
	重症心身障害児者等のための訪問カレッジ・オープンカレッジ	6
	アメリカ人学生の教育実習の補助	2
	愛大ゲームラボ	4
	新宮小中学校サマースクール	14
	児童クラブ夏休み教室（えりむ児童クラブ さくらんぼ）	3
	連携校実習（教職大学院）の提供活動	37
	新玉小学校・全校遠足での引率補助	16
	応用実習後の実習校での活動	1
	ふるさと実習後の実習校での活動	1
【参加決済学生用】伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村	6	
愛媛大学附属中学校	調理実習の補助（12月）	3
	調理実習の補助（1月）	0
	青葉写生会の補助	1
	調理実習の補助「12月魚の調理」	2
愛媛大学附属小学校	校外実習の引率補助（道後商店街）	5
	集団宿泊活動（レインボーキャンプ）引率補助	9
	運動会の補助（3・4年生対象）	7
	国立大洲青少年交流の家の引率（男子1名募集）	4
	夏フェスボランティアスタッフ	42
	校外学習引率補助 一六本舗本社工場見学	5
	1年生校外学習（城山公園にて秋探し）	17
	校外学習引率補助・消防署見学	3
	とべ動物園 校外学習引率補助	6
	校外学習引率補助（造船工場見学）	7
	校外学習引率補助・松山市消防出初め式見学	1
	校外学習の補助(道後村めぐり)	4
	5年生 家庭科 買物体験引率	7

愛媛大学附属幼稚園	愛媛大学教育学部附属幼稚園園外保育（バス遠足、ミカン狩り）	2
	愛媛大学教育学部附属幼稚園学芸会の補助	3
	愛媛大学教育学部附属幼稚園運動会	7
	愛媛大学教育学部附属幼稚園運動会の補助	13
	附属幼稚園園外保育（芋掘り）	1
	附属幼稚園園外保育（道後散策）	5
	愛媛大学教育学部附属幼稚園学芸会	7
愛媛大学附属特別支援学校	運動会での児童生徒の活動支援	2
愛媛大学附属高等学校	吹奏楽部の指導補助	1
大洲市教育委員会教育総務課	2024英語キャンプinおおず	5
愛媛県教育委員会特別支援教育課	第 21 回 愛顔のえひめ特別支援学校技能検定の補助	8
	第 22 回 愛顔のえひめ特別支援学校技能検定の補助	7
東温市教育委員会生涯学習課	わんぱく広場「滑川キャンプ」のサポート	8
	ジュニア体験塾（滑川キャンプ）の補助	11
松山市小中学校PTA連合会	キッズジョブ松山2024の補助	17
松山市教育委員会保健体育課	部活動指導の外部指導員（余土中学校サッカー部）	1
	部活動指導の外部指導員（南第二中学校女子卓球部）	0
	部活動の外部指導員（内宮中学校剣道部）	1
	部活動の外部指導員（南第二中学校男子卓球部）	0
	部活動の外部指導員（小野中学校男子バレーボール部）	1
	部活動の外部指導員（拓南中学校男子卓球部）	0
	部活動指導の外部指導員（湯山中学校女子ソフトテニス部）	0
	部活動指導の外部指導員（西中学校卓球部）	1
	部活動指導の外部指導員（北中学校男子卓球部）	1
	部活動の外部指導員（道後中学校陸上部）	1
	部活動の外部指導員（西中学校陸上部）	1
	部活動指導の外部指導員（拓南中学校男女剣道部）	1
	部活動の外部指導員（城西中学校男子ソフトテニス部）	0
	松山市教育委員会地域学習振興課	放課後子ども教室（石井小学校校区子ども教室）
松山市教育委員会学校教育課	中島中への大学生によるオンライン学習支援(第2回)	10
	中島中への大学生によるオンライン学習支援	4
	合計	629

V. 活動タイプ別 地域連携実習報告書（抜粋）

1. 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

2. 小学校における継続型学習支援

ICT サポート実習

3. 小学校における継続型活動補助

授業の補助

4. 小学校における継続型活動補助

「道小デイキャンプ(お化け屋敷)」の運営補助

5. 小学校における短期型活動補助

国立大洲青少年交流の家の引率

6. 小学校における短期型活動補助

被服実習の補助（11月12月）

7. 中学校における短期型活動補助

2024 英語キャンプ in おおず

8. 中学校の課外活動における指導支援

部活動の外部指導員

9. 特別支援学校における活動補助

運動会での児童生徒の活動支援

10. 幼稚園における活動補助

運動会の補助

11. 高等学校における教育体験活動

小学校低学年向け理科実験講座 指導補助

12. 高等学校における教育体験活動

「高校生サミット 今を創る 未来を変えるトライブ」のメンター

13. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

あそびの学校「夏休みのポスター作り」編

14. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

キッズジョブ松山2024の補助

1 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）1回生

実施記録	久米小学校	令和6年7月13日
全体報告書		
◆わくわくゲーム ◆授業 ◆全体遊び		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>◆わくわくゲーム 集合！文字数ぴったんゲーム（もうじゅうがり）</p> <p>協力して集まり話し合うことで、お互いの名前や好きなものについて知り交流を広げる事、他人と協力する力を養うことを目標に行った。活発な話し合いが行われ、積極的に友達を集めようとする児童の姿が見られた。流れの中で、声掛けを臨機応変におこなえたことは自信につながった。反省としては、かなりハイペースで行われ、説明の時点で児童がグループを作り始めており、同じメンバーで固定されていたり、全員がグループになれる前に話し合いがかいしされていたりした。話し合いが活発になる中で、注目が集まる前に指示を開始してしまったため統制が取れていない場面も見受けられた。時間を前に示して区切りをつけ、全体の注意を集めてからの指示を行うようにしたいとの反省があった。また、児童の前で先輩方に助けを仰ぐことがあったため、最後まで自信をもって行い、大きな声でしゃべるように改善したいという反省も見つかった。授業とのつながりの部分や椅子、机の準備、水分補給の指示が少なかったことも気を付けたい</p> <p>◆授業 わくチャレ自由研究～万華鏡をつくろう～</p> <p>まず授業の初めに前回の活動では何をしたのかを確認し、夏休みが近くなっていることについて述べた。そこで自由研究を持ち出し、わくチャレで自由研究を行ってみようと呼びかけた。授業のつかみが非常にうまく、大きな声でのリアクションや中には立ち上がって叫ぶほどの児童もいた。授業開始時には机の上に何も置かず、聞くための環境を準備できており、授業とわくわくゲームとの切り替えがしっかりと出来ていた。授業が始まると、理科の授業で学んだ鏡の反射を用いた内容であることを述べたのち、万華鏡を知っているか、見たことがあるかの確認が行われた。その後実際に万華鏡を覗いてみようということで、事前に作って準備しておいた三角形の筒状の万華鏡を各グループに渡し、触れてもらった。そこで面の数が増えると見え方はどうなるか予想を促し、ワークシートにまとめてもらった。かなり長い時間予想の時間をとっていたが、授業者が積極的な机間巡視を行い、予想のヒントとなる問いかけでアシストしていた。授業者以外の大学生も積極的にグループにかかわり、一緒に考えたり出た案に共感したりと、常に活発で様々な話し合いが行われていた。終始良い雰囲気で行われ、作るだけでなく、考察でも楽しそうな様子だった。発言に対し比較してみようといった非常に良い声かけもでていた。準備の段階から非常に考えられており、時間内に行えるように最大限の努力が施されていた。反省では、全体で指示すればよいことでも各グループに個別で指示をしてしまったこと、自由研究なのにこちら側から提供してしまったため、疑問をうまく出してから導入に入るようにしたいとのことだった。そのほかに、問いが漠然としていたため、児童が何をどのように考えればよいのかがわかりにくかったこと。課題が身近なものでないため腑に落ちなかったこと。万華鏡と透明なシートとの固定に輪ゴムを使用したため形が崩れてしまったこと。小学生だからこれくらいでいいやではなく、正しい知識を与えなければならないこと。しるしの大きさについての指示があいまいだったため、具体的にすべきとの意見があった。先生方からは作る前にまず実際の万華鏡を持たせることで疑問を持たせることができたのではないかと声や、最後片付けをすることなくほったらかしで全体遊びに移</p>		

ってしまったので、片付けまで行わせるべきとのことだった。今回の授業は数学、理科、図工と幅広い分野に当てはまる部分があったため、何に寄せるのかという部分から悩んだようであった。理科によせたが、疑問が生まれにくかったと反省していた。これに対し、理科の視点として見えたしるしの数ではなく図形に着目することや、三角形で統一し、最後に発展的に様々な形の三角形にするとより分かりやすかったらという意見が上がった。また、目標とまとめが一致しなくてはならず、そこがずれないように指導と評価の一体化を図るようにとの指摘があった。今回は評価の面につながりづらかったため、発問の工夫が必要である。全体の進行として、児童が発言中や、先生が指示を出している際も常に万華鏡を覗いていることがあったため、区切りを行い、逐次段階的な指示を出すことで対策しなくてはならなかった。また、その際には必ず全体の注目を集め、何も触らないように声をかけるようにしなくてはならないということを全体で共有した。活発でよい雰囲気での授業であり、二人の先生方の人柄が出たように感じ、児童の終始楽しそうでにやかな様子が心に残るとても良い授業だった。

◆全体遊び ポール運びリレー

ペアやチームで協力すること、学年の垣根を越えて仲良くなること、競争することで達成感を味わうことを目標にこの活動を行った。この目標を達成するため、5、6年生が混ざったチーム分けを行なった。また、2回目以降は意図的に難易度を上げ、チームごとに作戦会議や順番替え、気を付けなくてはならないことの共有など、チームとしての団結力を高める工夫がされていた。3回ともとても盛り上がり、白熱したゲームとなった。参加した大学生からもめっちゃくちゃ楽しかったという声も出ており、先生方からも褒めの言葉をいただいていた。一方で、チーム決めと移動が別々となっており時間ももったいなかったこと、声が小さく、児童が聞いていないことがあったり、後ろの方まで指示が通り切っていなかったりした。注目を集めるのも不十分な部分があったため改善したい。また、水分補給をしてからの集まりが遅かったため、具体的な時間の指示をして無駄な時間を削って行きたい。加えて前回の振り返りで出ていた休憩中のボールの扱いについて、今回の全体遊びでも改善が見られなかった。そのため次回以降ボールを用いる際は児童が勝手に遊ぶことがないように、道具を回収してから休憩に入るような指示を出す必要がある。

全員が楽しみ、協力することや勝負を通して達成感の得られる遊びが考えられており、非常に良い全体遊びになっていた。また、先にゴールしたチームも自分たちが終わったら終了ではなく、相手チームの応援をしてとても良い雰囲気だった。このような活発で互いに楽しみながら高めあえる全体遊びを考えていきたい。

各グループ一人ずつ感想を聞いていった。チームでの活動が多く楽しかった。万華鏡の授業がたのしかった。バスケ、しっぽ取り鬼ごっこ、増やし鬼ごっこがしたい。協力してがんばることができた。ほかの友達とかかわることができた。楽しかったという感想を聞くことができた。その後はワークシートと名札の回収の指示を繰り返し、確実にして終了となった。

◆全体への共有

STEAM（スチーム）教育

S	science	サイエンス	科学
T	technology	テクノロジー	技術
E	engineering	エンジニアリング	工学
A	art	アート	芸術
M	mathematics	マスマティクス	数学

一人一人のワクワクを呼び起こす科学、技術、工学、芸術、数学の5つの英単語の頭文を組み合わせた造語

2 小学校における継続型学習支援

ICT サポート実習

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）4 回生

実施記録	松山市立清水小学校	令和6年7月9日・10日・11日
1～4年生のエイリステストのサポート		
1年生 生活科(夏を探そう)、算数科(引き算)、国語科(テスト)のサポート		
3年生 図画工作科(人権ポスター)、理科(昆虫)、算数科(表)のサポート		
5年生 外国語(将来の夢)の授業観察		
特別支援学級 kahoot!のサポート		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>1. できるだけ多くの児童と自分から関わる【5点】</p> <p>今回の3日間は前期 ICT サポート実習の最終週ということもあり、今までの実習であまり関わっていない子にも積極的に声掛けを行うように心がけ、より多くの児童と関わる事ができたと思う。今回の ICT サポート実習では低学年の学級にお伺いする機会が多く、多くの児童が分からないことがあれば自分から意思表示を行っていた。だが、中には分からないけれども静かにタブレットやプリントと向き合っている子もいた。初めの頃は強く意思表示してくれる子ばかりを気にしていたが、今までの実習を経て、今回は教室の中を広く見て回り、困っていて静かにしている子にも声をかける事ができた点で成長したと感じた。</p> <p>また、特に3年生、4年生において、私は後ろの席の児童と話すことが多い傾向にあったため、今回は前の方の席の児童や教室中央の席の児童のところまで様子を見に行くように心がけ、声掛けを行う事ができた。様々な学級にお世話になったため、児童の顔と名前が一致するまで覚えることはできなかったが、今後きちんと児童を名前で呼べるように、名前を覚えるように努力していきたい。</p>		
<p>2. 分からないがおとなしい児童に対する関わり方を学ぶ【3点】</p> <p>今回の3日間の中でも、「分からないがおとなしい児童」と関わる機会が何度かあった。私は児童の「分からない」点を聞き、つまづきを理解してからその子にとって適切だと思われる声掛けを行うよう日々心掛けている。だが、おとなしい児童は自分の「分からない」を表現することが難しいことが多い。今回、児童のつまづいている点を理解するために、細かく一つずつ確認したり、はい・いいえで答えられるような質問を試みたり等試行錯誤しながら声掛けを行ってみたが、児童の困り感を解消する事ができなかった。このような児童の学びを支えるためには、時間をかけて児童と適切な信頼関係を築いていくことが必要であり、信頼関係が構築されれば児童も「分からない」を安心して表現できるのかもしれないと考えた。</p> <p>また、高学年になると「分からないからおとなしい児童」がいることに気が付いた。今回外国語の授業を観察させていただき、課題として出された内容があまり理解できていないが、誰かに聞くことなく、一人で抱え込んでしまう児童が何人かいた。高学年になると、どこまで分かっているか、何が分からないかを自分で表現できる児童が多いため、教師がつかまづいている児童を見逃さずに気が付ける力を身に付けなければならないと考えた。</p>		

おとなしい児童は、一見するとしっかりと理解してついていけているように見えるが、そうではないことも多くある。まずは、そのような児童にすぐに気が付ける力を養っていききたい。そして、困っている児童に気が付いた後、児童の「分からない」を理解し、それに沿った指導が行えるよう、児童理解力や私自身の人間性を磨いていきたいと考える。

3. 児童との言葉のキャッチボールを増やす【4点】

様々な学年の学級にお伺いする中で、多くの児童と関わり、色々と声掛けを行ってきたが、今まで私の声掛けに対する児童の返答にもう一度返答することができなかったことが何度かあった。今回はその反省を踏まえて児童に関わることを意識し、生活科の植物や虫の観察にサポートで入らせていただいた際には、児童との何気ない会話を通して、見つけたものや、感じたこと、児童の思いを聞くことができた。また、業間に廊下ですれ違った児童から「あれできるようになったよ！」と声をかけてもらった時には、「タイピングできるようになったの！すごいね！たくさん練習したのかな？」等、児童の成長をともに喜ぶことができた。

児童との言葉のキャッチボールは、児童の学習を支えたり、より深いものにしたりするために欠かせないものであると考える。だが今回の経験から、それだけではなく、うまくいかないことをともに悔んだり、成長をともに喜んだりなど、児童と同じ目線で感情や感動を共有するためにも重要なことであるのだと学んだ。今後も、児童との言葉のキャッチボールを大切に、多くの成長や感動を共有できる教師になりたいと思う。

3 小学校における継続型学習支援

授業の補助

教育学部 教育発達実践コース 小学校教育サブコース 1 回生

実施記録 松山市立姫山小学校 令和6年6月12日 13日 8:00~12:00
小学1年生のクラスで実習をしました。 朝の時間 宿題の確認 1時間目から4時間目までの授業の補助 給食時の配膳中の見守り
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
<p>1. 子ども達とたくさんコミュニケーションをとる。【評価3】 たくさんコミュニケーションをとりましたが、何度か返答に困ってしまったことがありました。「どう答えることが良いのか」とも悩みました。また、たくさんの児童たちが「先生」と呼んでくれて、とてもうれしかったです。しかし、同時にたくさんの児童たちが来てくれたときにどう対応していいのかわからなくなってしまい、微妙な反応をしてしまったと後悔している点もあります。話していても、体調が悪いという児童がいたら、焦って話を途中で切ってしまうこともありました。これからもっと経験していき、コミュニケーションが上手くとれるようになりたいと考えました。</p> <p>2. 先生方の授業方法や指導方法について観察する。【評価4】 メモを取って観察しました。児童たちを見ることに精一杯になってしまい、選択肢がすぐせままっていることに気が付きました。先生方が様々なことを考えて指導をしているところを観察して、大きく視野が広がりました。そして、それを本当に少しだけ活かすことができたと思います。また大学の授業で、1人1人の教育的ニーズにあわせて指導していくことが大切だという講義を受け、とても良い考えだと、そしてそれを実現していきたいと思っていますが、いざ現場に入り、30人の児童たちとコミュニケーションをとっていると、本当に大変で、実現はなかなか厳しいのではないかと感じました。そして考えているうちに、「1人1人の教育的ニーズに合わせて指導をするというのはどこまでなのか」という疑問があることに気づきました。これからもたくさん観察して、実践していき、教育現場の実態について、そして1人1人の教育的ニーズについて理解を深めていきたいと考えました。</p> <p>1年生の児童たちはとても元気で、そして正直で2日間でたくさんの驚きや気づきがありました。本当に大変な職業だと感じつつも、とても楽しく、やりがいを感じました。これからも頑張ります。</p>

4 小学校における短期型活動補助

「道小デイキャンプ(お化け屋敷)」の運営補助

教育学部 教育発達実践コース 小学校教育サブコース 1 回生

実施記録	松山市立道後小学校	令和6年7月27日
9:30~14:30 お化け屋敷の設営の手伝い		
15:30~20:30 お化け屋敷の開催の手伝い(お化け役や子供たちの誘導など)		
ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)		
<p>①小学1~6年生の子供達と関わることによって、自分の子供達とのコミュニケーション能力を鍛える。[評価4]</p> <p>今回はお化け役と子供たちの誘導の両方を体験させていただきました。お化け役では怖がる子供と何も反応しない子供がいて、子供たちも多種多様だと感じました。当日は学年ごとに入場したため、時間の都合上1、2年生とは関わる機会が少なかったのですが、たくさんの子供たちと関わる事ができたのが非常に良かったと思います。自分自身も、どのように子供に話しかけてコミュニケーションをとればよいかを学ぶことができる機会でした。</p>		
<p>②準備から片付けまで一連の流れを知る。[評価4]</p> <p>朝から昼にかけて「おやじの会」の方々と協力しながら教室を使って設営をしたことで、何もないところからアイデアを出し合っ一から作っていく楽しさと大変さを感じました。しかしながら、片付けが段取り上最後まですることができなかつたことが申し訳ない思いもありますが、主催者の方々と同じ想いで作り上げていけたことが良い経験となりました。</p>		
<p>③主催されている地域の方々の子供達への想いを知る。[評価5]</p> <p>おやじの会の方々が、「子供たちに楽しんでもらうためにやっている」と仰ったことが非常に印象的でした。我々学生も同じ想いで参加させていただきました。その想いの元やったことによって大成功につながったと思います。また子供たちと同時に「おやじの会」の方々や我々学生も楽しんでいたことも非常に良かったと感じます。私が教員になった際にも、「子供たちのためにどうすれば良いか」ということを常に考えながら行動していこうと改めて思うことができた経験でした。</p>		

5 小学校における短期型活動補助

国立大洲青少年交流の家の引率

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）4 回生

実施記録	愛媛大学附属小学校	令和6年6月23日（日）～25日（火）
5 年月組の引率補助、活動補助		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>1 自分にできることを常に考え、様々な活動及び補助に意欲的に取り組む。【評価4】 はじめは児童の実態や様子をよく見ることから始め、次第に自分にできることを見つけ、先生の補助や児童の補助に意欲的に取り組みました。計画的に考え、先のことまで予測して指示を出されている先生方の働きかけから学び、最初は先生方のまねをして、次第に提案したり実習生同士で役割分担をしたりするなど自分で考えてできる行動が増えたと思います。入浴指導や各部屋の見回り等を任せていただき、集団宿泊研修ならではの児童の様子や行動の仕方を近くで見ることができ、そこでの必要な指導や支援を学ぶことができました。また、選択活動や座禅、飯盒炊飯やウォークラリーなどの活動にも参加させていただき、自分も児童や生徒として活動したことを先生の立場で関わることで学ぶことが多かったです。この貴重な経験を通して学んだことを、将来引率として参加できるときに実践したいと思いました。</p> <p>2 先生方から、引率時の配慮事項や工夫、働きかけ及び声かけの仕方を学ぶ。【評価5】 先生方は児童が主体的に活動に取り組めるよう、また児童が集団宿泊研修を楽しただけで終わらせずに目的意識をもって取り組めるよう指導されていた印象です。特にクラスマッチやバスの中でのレクリエーションでは、当然児童の進行・運営で活動が行われていましたが、途中でうまくいかないことが起こりました。児童は運営係を中心に話し合える環境をつくり、意見がある人が発言をして話し合い、意思決定・合意形成を図ろうとしていました。その際にも先生方は児童の話し合いの過程を見守りながら、必要な場面で声をかけたり提案をしたりして関わりをもっていました。先生が関わりすぎることも、ときには児童の話し合いの場を奪ってしまうと思い、先生方の程よい距離感と働きかけ、言葉選びが大変勉強になりました。先生方が各所で集団宿泊研修の目的や子どもたちの望ましい集団活動や行動の仕方についてお話されており、それが児童の行動選択・意思決定にも影響を与えていると感じました。</p> <p>3 2泊3日を通して、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取る。【評価5】 先生方の言葉がけはあたたかく、できていないことを指摘するというよりも適切な行動ができていない人を褒めることで周りの意識を育てていました。そこで自分も「走らない」ではなく「歩こう」というように、否定の言葉ではなくプラスの声掛けをすることを意識しました。短い時間でしたが少しでも多くの児童の名前を覚え、名前を呼んで挨拶をしたり声をかけたりすることも心がけました。長く子どもと付き合う上では子どもの毎日の変化や体調にも気づくことができる大切なことだと思い、2泊3日でも少しは感じられたのが良かったです。プラスの言葉を使うこと、良い行動を褒めることはどの発達段階でも必要な関わりだと思い、今後の教育実践でも生かしていきたいです。</p>		

6 中学校における短期型活動補助

被服実習の補助（11月12月）

教育学部学校教育教員養成課程（中等教育コース）2回生

実施記録	松山市立東中学校	令和6年11月25日
中学3年生の被服実習の補助で、お弁当袋づくり（裁断、しるし付け、三つ折り）の支援を行った。		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>（1）現職の先生の授業の進め方や指導方法をしっかりと観察する。【5】 本実習を通して、50分という限られた授業時間の中で、効率よくかつ円滑に作業を進める為のポイントをしっかりと吸収することができた。まず、授業の始めに、本時のお弁当袋づくりにおける到達目標や流れを丁寧に説明することで、生徒が見通しを持って作業を行えるようになっていたと感じる。また、今回の三つ折りややアイロン作業を行う際の注意点を、口頭でただ説明するだけではなく、実際に紙の模式図を提示して、成功例や失敗例、例年生徒が陥りやすいミス等を伝えていた点が工夫だと痛感した。そして、伝えるべき要点を簡潔に説明した後、すぐに作業に移行していたため、効果的な時間の使い方であると学んだ。さらに、作業終わりには記録表を書く時間を設けることで、生徒一人一人が自分の進捗状況を確認しながら、次回の作業の見通しを立てて振り返ることができるのだと感じた。</p> <p>（2）生徒の主体性を尊重しつつ、臨機応変にサポートを行う。【4】 本被服実習においては、三つ折りから始める生徒が多数であった一方で、布の裁断やしるし付けから入る生徒もいるなど、生徒によってかなり進捗状況にばらつきがみられた。その為、広い視野を持って一人一人のペースに合わせた補助を行うことが、個人的に難しいと実感した。また、見回りをしながら生徒の様子を確認していたのだが、三つ折りに苦労して、手が止まっていた生徒も中にはいた為、その都度ものさしの効果的な使い方を説明し、支援することができた。そして、前回の被服実習の補助の際に、正しいやり方を提示する中で、自分が生徒の主体性を奪ってしまった場面があったが、本実習では臨機応変に対応することができたように感じる。さらに、今後はより一層広い視野を持ち、本当に困っている生徒には、率先して自ら助言ができるような存在になりたいと考えた。</p> <p>（3）アイロンや針等を用いる際には、安全面に留意する。【4】 今回の授業では針を使う場面はなく、主にチャコペンやものさし、裁ちばさみやアイロンを用いて行った。特に、アイロンは使い方を誤ってしまうと、生徒が火傷を負ってしまう危険性がある為、安全面には細心の注意を払って見守ることができた。また、授業の後半から多くの作業台にアイロンが置かれており、電源を入れた状態であったのだが、アイロンのすぐ近くに物を置いている生徒がいた為、しっかりと注意喚起を行うことができて良かった。そして、今回のような被服実習だけではなく、調理実習の際などにも安全面には十分に気を付けたい。</p>		

7 中学校における短期型活動補助

2024 英語キャンプ in おおず

教育学部学校教育教員養成課程（中等教育コース）4 回生

実施記録	大洲市教育委員会 令	和6年8月5日
リテラチャー・サークルの役割の説明をしたり、活動準備のサポートをする。また、活動中はディスカッションディレクターになり、適宜生徒の活動のサポートをする。		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1) 生徒や周りをよく観察し適切な声掛けやサポートを行う。 (4)		
<p>活動が進んでいない生徒に対しては、質問をしながら生徒の意見を引き出すようにした。また、巡回適宜声掛けを行うことで、質問しやすい雰囲気作りを心がけた。一方、話し合いの際、生徒の意見の意図がわからず、伝わる英語に直すことができず、理解が曖昧なまま話し合いが進んだため、生徒の意図を汲み取ることができるよう問いを工夫する必要があると考えた。</p>		
2) 参加者全員が楽しくリテラチャー・サークルに取り組むことができるような声掛け、雰囲気づくりをする。 (5)		
<p>私はイラストレーターを担当だったため、絵やその絵を描いた理由などを聞き、それらに対して肯定的な声掛けを行った。また、話し合いでは、生徒の意見に対し褒め言葉をかけた。</p>		
3) 全ての生徒が話し合いに参加できるよう、ディスカッション・ディレクターとしてタイムマネジメントに気を付け、満遍なく話を振るようにする。 (5)		
<p>時間が余った際に新たな質問について考えさせたり、追い発問をしたりして、時間いっぱい話し合いをさせることができた。また、発言が少ない生徒に質問を振ることで、全ての生徒が話し合いに参加できるようにした。</p>		

8 中学校の課外活動における指導支援

部活動の外部指導員

教育学部 初等中等教科コース 1 回生

実施記録 松山市立余土中学校 令和6年7月21.25.27日
試合・練習の指導、審判
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
1. 試合に向けて現在のチーム状況に応じた戦術を考える：3 練習の様子から現在のチーム状況を分析し、チームの強みを活かすこととチームの弱みを補強することを意識して戦術を考案した。しかし、試合中で戦術的にうまくいかないことがあったときに、瞬時に最適な戦術変更を行うことができなかった。より良い試合中の臨機応変な戦術変更を行えるように、サッカー理解を深めていきたい。
2. 生徒に基礎技術を身に付けさせる：4 今回は、守備時の基本動作についての指導を行った。守備の練習では、ケガが発生しないように特に注意深く指導した。しかし、練習の効果を考えると強度が必要になってくるので、ケガのリスクと練習の強度のバランスを考慮することが難しかった。また、生徒の運動能力やこれまでの競技経験によって伝え方を変えた。これからも粘り強く基礎技術について指導していきたい。
3. 生徒それぞれの競技レベルに合わせた指導を行う：4 生徒の技術レベルをもとに、練習を行う際に意識すべきことをそれぞれ指導した。これからも、初心者には基礎技術の徹底指導を行い、上級者には応用的な技術練習を提供することで、全体の技術レベルを底上げしていきたいと考えている。また、より個別の指導を行えるように時間配分を意識して練習メニューを考案していこうと考えている。

9 特別支援学校における活動補助

運動会での児童生徒の活動支援

教育学部学校教育教員養成課程（特別支援教育コース）4 回生

実施記録	愛媛大学附属特別支援学校	令和6年5月26日（日）
・各競技で使用する道具の準備、片付け ・玉入れのかごを支えて、玉の数を数える		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1. 運動会における先生や学校全体の動きを把握する。5 点		
<p>子どもたち一人一人が自分のやるべきことが分かり、活動に一生懸命に取り組み、楽しんでいる姿が見ることができた。こうした子どもたちの姿が見られたのは、子ども、各学級の先生方、そして学校全体で連携・協力して計画的に準備や練習を重ね、丁寧につくりあげてきた成果であると思う。先生方一人一人が役割をもちつつも、子どもの動きに合わせて他の先生方と役割を交代したり、その場の状況に柔軟に対応していた。運動会の進行においては、準備・片付けや放送など、子どもに積極的に仕事を任せていた。子どもの自己存在感を高め、子どもたちが運動会をつくっているという子ども主体の環境を整備することが行事においても重要であると感じた。また、卒業生も参加していたところが印象的であった。卒業しても先輩方とのつながりを大切にしていたり、先生方も積極的に行事に参加していたりと、学校全体で一丸となって子どものために盛り上げる姿勢が大変素敵だと思った。</p>		
2. 子どもの活動を見守りながら、自分にできる仕事を見つけて進んで行動する。4 点		
<p>進行にあたって、先生方が説明や指示を丁寧にしてくださったおかげで、特に慌てることもなく準備や片付けを行うことができた。運動会終了後の片付けでも、人手が足りないところに行き、子どもたちや保護者の方々と協力しながら行うことができた。反省点としては、子どもが片付ける道具を持って行こうとしてしまったことである。「何かしないと」という使命感に駆られて、子どものできることを奪わないよう十分に気を付けたいと思った。また、何か行動する上で、分からないことや不安な点は事前にしっかりと確認をとっておくことが必要であると感じた。</p>		
3. 子どもたちに積極的に声をかけ、笑顔で明るい振る舞いを心がける。3 点		
<p>笑顔で明るい態度で業務を達成できたと思う。競技中は積極的に応援ができたが、直接声をかけたりすることがあまりできなかった。また、帰る際にお世話になった先生方全員にはあいさつができなかったため、今後は気を付けたい。</p>		

10 幼稚園における活動補助

運動会の補助

教育学部小学校教育サブコース 1 回生

実施記録	愛媛大学付附属幼稚園	令和 6 年 10 月 12 日(土)
運動会の競技で使用するものの運搬、幼児が座る椅子やテントの運搬、幼児の安全確認、ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1. 子どもたち含め周囲の人の体調を気遣う【評価 3】		
<p>子どもたちと直接かかわる機会が少なかったため、子どもたちの体調を気遣う声掛けをすることができなかった。当日は気温も高かったが、体調が悪くなった人がいなかったのはよかった。</p> <p>障害物競争や綱引きは競技中に危ないと思う場面があったが、園児に対する声掛けや後ろで綱を支えておくなど子供たちが安全に楽しく運動会を行えるようサポートすることができた。</p>		
2. 指示される前に自分のできることを見つけ、率先して行動する【評価 4】		
<p>競技の準備をしながら、後片付けも同時進行で行うなど運動会を円滑に進める工夫がみられた。そこで、自分から「この道具はどうしたらいいですか」など分からないことは積極的に聞くようにし、先読みして行動することができた。準備の担当が不在の際には、代わりに出て臨機応変に対応することもできた。</p>		
3. 幼児の発達段階に合わせた種目の工夫点や教員の援助行動について学ぶ【評価 4】		
<p>旗を使った準備運動、ケンケンパの回数の調整、障害物の選択（スクーターをボール運びに変更する）など全ての種目において幼児の発達段階に合わせた工夫がみられた。他にも、親子で一緒に楽しめる種目（綱引きやすずわり、ダンスなど）、子供たちがつくったプログラム表やダンスの衣装で準備の段階から子供たちも一緒に取り組めるのだと学んだ。</p> <p>また、年長が年少の競技のサポートに回っていたことも印象に残っている。子どもたち同士のつながりや子どもたちにできることを考えて任せているのだと思った。子どもたちの待機テントで先生方がどのような声掛けをしているのか学ぶことはできなかったが、競技で負けて悔しい思いをしている子どもに対する先生方の声掛けは学ぶことができた。運動会を円滑に行ううえで先生方の連携が欠かせないこと、先読みして行動すること、そして何より子どもたちが安全に楽しむためにはどうすべきか考えることが重要だと感じた。</p>		

11 高等学校における教育体験活動

小学校低学年向け理科実験講座 指導補助

教育学部小学校教育サブコース1回生

実施記録	愛媛県立伊予高等学校	令和6年8月1日
わたあめ作り実験の補助・巨大シャボン玉作りの補助		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1.理科の実験を安全に進めるためにどういった工夫がされているか学ぶ:4点 理由:安全に進めるための指示の出し方について学ぶことができたから。		
2.指示を待つだけでなく、自分で考えて積極的に行動する:4点 理由:自分が担当する班の児童に指示をしたり、必要な実験道具を用意したりするなど、積極的に行動できたから。		
3.児童とたくさんコミュニケーションをとる:5点 理由:たくさんコミュニケーションをとり、実験の補助をすることが出来たから。		
今回の活動を通して学んだことが3つある。 1つ目は、生徒に合わせたパワーポイント作りの必要性である。担当の先生が授業前にスライドの確認を行っていた。今回は小学校低学年へ向けた授業だったため、漢字がひらがなになっているか、しっかりふりがなをつけているかなどを確かめ、必要に応じて手直しをしていた。		
2つ目は、指導者全員が、気をつけるべきことを共通認識しておくことである。今回は午前と午後の部があり、午前の部が終わったときにリフレクションタイムが設けられた。その時間に午前の部の反省や、午後の部に向けてどう改善すべきかなどを話し合った。自分ひとりでは気づけなかったことにも気づくことができたし、自分が気づいたことを全員に伝えることもできた。実験を安全に進めるために大事な時間だと感じた。		
3つ目は、危ないからという理由で全てのことを禁止するのではなく、危ないことも経験させてあげることが大事だということである。指導する立場になると「危ないからやってあげるね」とつい言ってしまいがちである。しかし、児童にはやってみてみたい気持ちがあるので、それを妨げてはならないということを学んだ。		

12 高等学校における教育体験活動

「高校生サミット 今を創る 未来を変えるトライブ」のメンター

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）4 回生

実施記録	愛媛大学提供事業（三崎高等学校）	令和6年12月12日～13日
伊方地域をフィールドワークをし、題を見つけ解決策を話し合い提案していく1泊2日の活動を補助・サポートした。		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
① メンターとして高校生の学びをサポートする 2点 サポートする立場であるのに、介入しすぎてしまって高校生の自主性や主体性をとめてしまった。時には見守ったり、放任したりして失敗の経験も経て学ばせることが大事であると感じた。		
② 地域と連携して教育をする方法を学ぶ 4点 地域に足を運び、地域の方の生の声を聞くことで地域の魅力を感じることができた。地域の方に学校の教育に興味を持ってもらうためにはまずはどんなことをしたいのかその趣旨を伝え、理解してもらうことが大事である。今回はzoomで事前にフィールドワークでしたいことを伝えていたので有意義な時間を過ごすことが出来た。地域の方と繋がり、共に学ぶことは地域にとっても学校にとってもメリットが沢山ある。地域の繋がりが薄くなっている今、地域連携教育は積極的に進めていくべきだと感じた。		
③ 地域における課題解決学習の手立てを学ぶ 4点 ②と共通する部分もあるが、やはりフィールドワークをして実際に目で見て耳で聞いて感じることは大切であると感じた。また、今回は伊方町に四国各地の高校生が集まったがこの学びを自分の地域に戻って、自分事として捉え直すことで学びが繋がっていく。学習が学習の中で終わってしまわないようにまとめることが重要であることを学んだ。		

13 社会教育施設等での活動支援や活動補助

あそびの学校「夏休みのポスター作り」編

教育学部小学校教育サブコース1回生

実施記録 潮見公民館 令和6年8月10日
10:00~11:30頃 ポスター作成・指導 ~12:00 片づけ
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
<p>①進捗状況を踏まえた適切なサポートを行う。【評価:4点】</p> <p>私が担当した児童は緑化推進ポスターを作成した。何をポスターに描きたいのかを質問しながら、一緒に構図を考えた。進捗状況を意識して作成を促すことや、褒めることを意識した。ひまわりや川、きのこや木など、児童本人が描きたいものが詰まった素敵なポスターを時間内に完成させることができた。児童本人も終始楽しみながらポスターを描き、完成した作品に自信を持っていたので良かった。</p>
<p>②ポスター作製の指導法を学ぶ。【評価:5点】</p> <p>児童は絵の具だけでなくコンテパステルを用いて色塗りを行った。私自身コンテパステルの使い方を知らなかったが、担当者の方が色々な色を混ぜて暈す方法を教えて下さり、児童は楽しみながら実践していた。担当者の方は、木の葉は筆を押して表現することや、黄色を混ぜることで光に見えることも教えて下さり、色味が鮮やかなポスターを完成させることができた。今回の経験を通して、色塗りの指導の重要な点について学ぶことができたので、今後の指導に生かしていきたい。</p>
<p>③発達段階に応じた話し方を身に付ける。【評価:5点】</p> <p>ポスターを作成しながら児童とお話をした。児童が分かりやすい内容を話したり質問をしたりと、優しい言葉で会話をすることを心がけた。児童も次第に心を開き、自分から話をしてくれて嬉しかった。</p>

14 社会教育施設等での活動支援や活動補助

キッズジョブ松山2024の補助

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）3回生

実施記録	松山総合コミュニティセンター	令和6年11月17日
運ブースの受付・誘導・準備・片付け		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1. 周囲に目を向け、臨機応変に行動する。（5点）		
<p>担当したブースはもちろん、周囲に目を向け自分にできることはしっかりと責任をもってすることができた。子どもを十分に思うPTAの方々の姿はすごく素敵であり、私もそうでありたいと改めて思った日であった。ボランティアではあったが、子どもからすれば大人であるため、1人の大人としてイベントに携わることができたと考える。参加してくださった様々な業種の方々やPTAの方々など、大きなイベントを何年も続けるためには、多くの人の思いがなければ成り立たない。キッズジョブの凄さを実感することができ、機会があればまた参加したい。</p>		
2. 子どもたちと積極的に関わる。（4点）		
<p>子どもたちと関わることはできたが、ブースの中の数人としか話すことができず、全員に対しての関わりができなかった。しかし、1人で来ている子や不安そうな子などが安心して職業体験を楽しめるよう、笑顔で声を掛けることを意識しながら関わるすることができた。少しでも安心材料になっていたらと考える。子どもと関わる際には、もっと積極的に関わりを持ちたい。</p>		
3. 子どもにとって楽しかったという思い出になるよう、自分にできることを進んで行う。（5点）		
<p>授業後の子どもたちの顔が笑顔で溢れていたことから、楽しかったという思い出になっていたと考える。感謝状をお渡しする際には、先生方と子どもたちを結び付け、簡単ではあるが言葉を述べることもできたため、自分自身も成長することができたと思う。子どもはもちろん、私自身も楽しく、多くの学びを吸収することができた貴重な日になった。夢に向かって私も頑張ろうと改めて思った。</p>		



地域未来教育賞は、細かい規定はありますが、大まかに地域連携実習に 60 時間以上の参加をし、なおかつ推薦された学生に送られます。



舟木結衣子さん 部活動指導 授業支援ほか

藤村小桜さん わくわくチャレンジサタデー 全校遠足の補助、特別支援学校技能検ほか

高橋ひなのさん わくわくチャレンジサタデー 全校遠足、キッズジョブほか

杉野美音さん わくわくチャレンジサタデー 全校遠足、校外学習の補助ほか

川上瑞葉さん 愛大ゲームラボ 愛大マイクラフト こどもクリエイターズスクールほか

今年度から単位に代わり 2 種類のオープンバッジ認定になりました。どちらも 4 年間で 1 度だけもらえるものです。

地域連携実習 30 時間以上の参加が条件の「地域教育支援認定証」は、今年度申請をして授与されたのは、上の 5 名を含む 14 名でした。